

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【郡山市】

1 実践テーマ	【Vスポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成】
2 実施対象者	郡山市立東芳小学校 1年（14）2年（17）3年（15）4年（9） 5年（19）6年（17）教職員（12）保護者（3）地域住民（2）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（体育・総合的な学習） （2）地域における活動 ② その他（学校開放）
4 目標 （ねらい）	○スポーツの意義や価値などへの理解・関心を高め障害を持つ方を含め多くの人たちが生涯を通じて主体的にスポーツに参加することが出来るようになる。 ○東京オリンピック・パラリンピックムーブメントの機運醸成へとつなげる。
5 取組内容	<p>《車いすバスケットボール選手との交流会》</p> <p>1 選手紹介 2 車いすバスケットボールのプレー見学 3 体験交流 車いすの試乗 車いすバスケット体験</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>4 福島県障害者スポーツ協会の方の講話 「障害のある人が、スポーツをするということについて」 *児童からの質問</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

	<p>5事後に障がい者スポーツについて図書資料で調べ学習を行った。</p>
6 主な成果	<p>○明るく、元気にプレーする選手の皆さんと出会い、障害を持つ方への偏見が払しょくされた。</p> <p>○車いすに乗せていただき、実際に操作したり、バスケットボールに挑戦したりして車いすに親しみ、その特性に気づいた。車椅子を利用される方への配慮にも気づいた。</p> <p>○一緒に、バスケットボールの試合を楽しむことで、障がい者スポーツへの理解が深まり、応援しようという気持ちが芽生えた。</p> <p>○講話を聴いたり、質問に答えていただいたりして障害を持つ方にとってもスポーツは重要な役割を果たしていると感じた。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックへの関心が高まった。 ○大変充実した活動ができた。得難い機会だった。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○フロアの椅子の配置やコートを設置を工夫し、子供たちが選手を身近に感じられるようにした。また、車いすバスケットの迫力を感じることが出来るよう配慮した。</p> <p>○車いすバスケツ選手との交流が多くなるよう工夫した。</p> <p>○保護者、地域の方にも参観を呼びかけた。</p>
8主な課題等	<p>○校舎内のバリアフリー化を進める必要がある。 (体育館から「ゆったりトイレ」へ車いすで行くことが出来ない。)</p> <p>○継続的な活動(選手との交流)が可能になると活動の幅が広がる。</p> <p>○児童の移動にかかる予算がとれると発展的な活動ができる。</p> <p>○教育課程がタイトで十分な活動時間がとりにくい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○大変意義深い学習経験だったが、本校においては、次年度以降は、選手との交流などは考えていない。教育課程がタイトであることが、一番大きな理由。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックの準備が進むにつれてさらに、機運も盛り上がると思われる。国際理解や英語表現などの内容と関連させて扱っていきたい。</p> <p>○体育的行事にオリンピック・パラリンピックとの関連を、タイトルのつけ方、競技内容の工夫などで持たせる。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックに関連する情報の掲示を続ける。</p>